

平成30年度 受験講座 開講の案内

1. 受験講座開講の目的

この受験講座は、**現場経験が豊富なベテランの施工・マネジメント系技術者**に向けて、技術士資格の取得を支援し、さらに高いレベルで活躍されることを期待して開講しています。

本講座は第二次試験の記述式試験について解説します。答案の文章記述の基本セオリーは共通ですので、建設部門以外の他の部門・科目、また所属、従事する業種・職種に関わらず、ベテラン・若手、性別を問わず、すべての受験者の参考になることも目指しています。

技術士第二次試験は、日頃からコツコツと知識と経験・体験を積み重ねて、それを論理的に表現して説明する訓練を効率的に行い、合格を本気で目指すことで合格できる試験です。

予め申し上げておきますが、本講座を含めどんなに優れた講座・講習を受講して、読み聴きしただけでは合格はできません。日々実務での課題に取り組み、その実践の記述を自ら繰り返し訓練して身につけておかなければ、本番の試験では合格レベルの答案は書けません。また合格答案とされる他人が書いた答案例をいくらたくさん読み、ただ丸暗記・丸写ししようとするだけの中途半端な準備では、合格に至る実力はつけられないです。

NPO 法人 西日本建設技術ネットでは、この受験講座を平成24年10月から毎年開設し、毎年見直し追加しつつ、平成30年度に向けたこの講座で6年目を迎えます。

2. 受験講座の概要

この受験講座では、平成25年度～平成29年度の出題やそれ以前の過去問、さらに参考になる選択科目や他の資格試験の問題も、広い視野で分析し例示しながら、平成29年9月から平成30年6月頃までに、ひと月におよそ3回のペース（計30回程度）に分けて解説する予定です。（毎月概ね5, 15, 25日頃に掲載できるよう努力します）

次回（本講座第2回）で、30年度に初めて受験しようと考えている方々に向けて、技術士資格と試験全般について解説します。第3回は、試験についての調査・計画と準備のスタートです。第4回（10月）から第6回では、建設部門各科目（12科目）共通の必須科目Ⅰ，選択科目Ⅱ，Ⅲの出題傾向を概説します。

第7回（11月）から第11回までは、**【基礎編】**としてこれまで数回受験しても合格へ届かない方々に向けて、小手先の受験テクニックではなく、合格できない原因を探る手がかりとして基礎から受験勉強のポイントと、合格できる答案文章記述の方法を解説します。

【試験と講座の案内・準備・計画編】 （第1～第3回）	平成29年9月～
【出題傾向と取り組み方】 必須科目Ⅰ，選択科目Ⅱ，Ⅲ	平成29年10月～
【基礎編】 （第7回～第10回）	平成29年11月～
【建設部門各選択科目への応用・実践講座】	平成29年12月～

詳しくは、後の「6. この受験講座の主な内容とスケジュール」をご覧ください。

3. 記述式試験の、平成 30 年度から新しい出題への対応

平成 30 年度から筆記試験が以下のように、新しい出題方式に変更されると予告されています。

表一 1 第二次試験（総合技術監理部門を除く）各技術部門の出題方式の変更

試験科目	問題の種類	試験方法	試験時間	配点	合格点
必須科目Ⅰ	「技術部門」全般にわたる 専門知識、応用能力、問題 解決能力及び課題遂行能力	記述式 600 字詰用紙 3 枚以内	2 時間	40 点	60% 以上
選択科目Ⅱ	「選択科目」に関する 専門知識及び 応用能力	記述式 600 字詰用紙 3 枚以内	3 時間	30 点	60% 以上
選択科目Ⅲ	「選択科目」に関する問題 解決能力及び課題遂行能力	600 字詰用紙 3 枚以内 2 問出題中 1 問選択	30 分	30 点	
計	600 字詰用紙 9 枚以内		5 時間 30 分	100 点	

表一 2 試験の内容

問題の種類	概念	内容
必須科目（Ⅰ） （記述式試験） 「技術部門」全般 にわたる専門知識 応用能力、問題 解決能力及び課 題遂行能力	○「技術部門」において不可欠な技術、 業務遂行に際して必要な社会制度等 に関する専門的な知識に加え、新たに 直面した、または直面する可能性のあ る課題等に対し、多様な視点から検討 し、論理的かつ合理的に適切な対応を 行える能力	「技術部門」における不可欠な技術、社会 的に重要なキーワード、業務における関連 法規・制度等に対する専門的知識に加え、 「技術部門」全体に係わる社会的な変化・ 技術に関する最新の状況や「技術部門」 に共通する普遍的な問題を対象とし、これ に対する課題等の抽出を行わせ、多様な視 点からの分析によって実現可能な解決策 の提示が行えるか等を問う内容とする。
選択科目（Ⅱ） （記述式試験） Ⅱ-1 「選択科目」に関 する専門知識 Ⅱ-2 「選択科目」に関 する応用能力	○「選択科目」で対象とする技術分野 全般にわたる専門的な知識 ○これまでに習得した専門的知識や 経験等に基づいて、与えられた条件に 合わせて正しく問題点を認識し、必要 な分析を行ない、適切な業務プロセス や留意すべき内容を説明できる能力	「選択科目」における重要キーワードや新 技術等に対する専門的知識を問う。 ・「選択科目」に係る業務に関し、与 えられた条件に合わせて、専門的知識や実 務経験に基づいて業務遂行手順が説明で き、業務上で留意すべき点や工夫を要する 点等についての認識があるかを問う内容 とする。
選択科目（Ⅲ） （記述式試験） 「選択科目」に関 する課題解決能力	○社会的なニーズや技術の進歩に伴 い、最近注目されている変化や新たに 直面する可能性のある課題に対する 認識を持っており、多様な視点から検 討を行い、論理的かつ合理的に解決策 を策定できる能力	・「選択科目」に係る社会的な変化・技 術に関する最新の状況や「選択科目」に 共通する普遍的な問題を対象とし、これに 対する課題等の抽出を行わせ、多様な視点 からの分析によって実現可能な解決策の 提示が行えるか等を問う内容とする。

現在（9月）の段階で、試験の変更についての正式な公示は出されていませんが、変更を前提に準備を始めておかなければ、間に合わなくなるおそれがあります。そこでこの講座では、新しい出題方式への変更の内容で講座を進めていきます。

選択科目Ⅲには、今回変更はありません。2問出題中1問選択（答案用紙3枚）で、これまでの、各選択科目に普遍的な内容で受験者の課題解決力を問う設問になっています。

4. 記述式試験問題への取り組み方

4-1 記述式試験への共通の取り組み方

記述式問題には、必須科目問題Ⅰ，選択科目問題Ⅱ-1，Ⅱ-2，Ⅲ、すべてに共通ですが、まず問題文を正確に読み取って、その出題意図に従い忠実に答案を作成することが合格の基本です。制限時間が厳しいので、問題文の出題意図を重要な語句の意味から素早く正しく理解する必要があります。その語句とは、**テーマ（キーワード）、出題の背景、問題の切り口、記述の条件・範囲、書き方の指示**の表現です。

問題文は、以下の重要語句で組み立てられています。

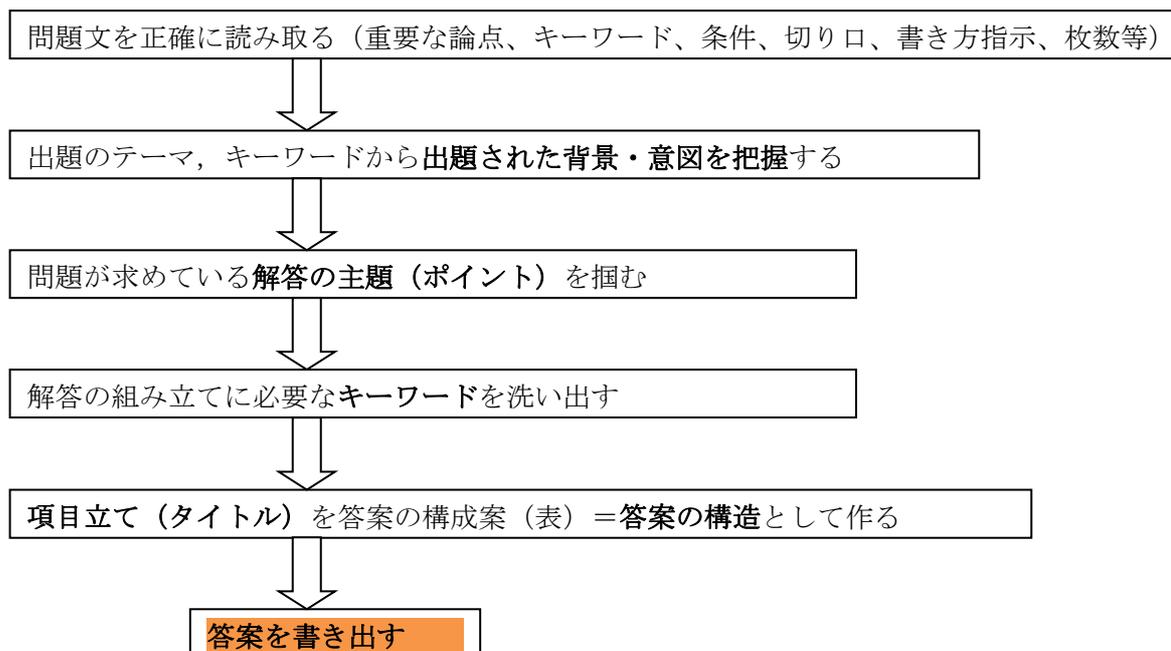
表-3 問題文の重要語句

区分	意味	例
テーマ (基本的な論点)	出題で問われている主題(本題) (キーワード、概念、定義等)	温度ひび割れ発生の抑制 高齢化、老朽化するインフラの維持管理 生産性向上と品質確保 等
切り口	主題について書くことを指示している(求めている)内容や属性	特徴、背景、効果、対策、現状、原因 課題、提案、検討事項、効果、問題点 メリット・デメリット、リスク 等
条件・範囲	記述する際に指定している与件、前提・範囲、記述内容、方法(例:図示)、枚数など	発生メカニズムの説明、施工上の対策 原因の特定と対策に必要な業務手順 ハード・ソフト両面 等
書き方指示	答案の記述形式	列挙せよ 挙げよ 手順を示せ 述べよ 説明せよ 概説せよ 論ぜよ 論述せよ 等

すべての記述式問題に、記述を求めている項目、内容で答案をまとめるポイントを挙げます。

- 1) 問題文の出題意図、使用されている用語、概念を正確に把握する。
- 2) 正解に必要なとなる主要な項目、内容、範囲は読み違えず、落とさない。
求められていないこと(答案に必要でないこと)は書かない。
- 3) 答案の構造、記述順序、記述の概要、キーワードを整理・メモしてから取りかかる。
- 4) 2つあるいは3つ求めている項目はそれぞれ主要なものを、バランスよく挙げる。
- 5) 各項目の説明内容は偏らないで均等になるように、広く浅く記述する。
- 6) 答案用紙1枚(600字)を30分(構想3分+記述25分+見直し2分)以内で仕上げる。

これを答案作成前のフローにして示します。



図－1 記述問題の答案作成前のプロセスフロー

4-1 必須科目Ⅰは記述式試験へ変更

平成 25 年度から採用された必須科目の択一試験が、平成 30 年度から再び記述式試験に切り替わることを前提にした内容で、以下に解説します。

新たな必須科目Ⅰは、「技術部門」全般にわたる専門知識に加えて、応用能力、問題解決能力及び課題遂行能力を問う問題となり、答案用紙 3 枚（1800 字）以内での記述を求められます。すなわち、各部門に共通の現下の社会的、技術的課題に対し、受験者の知識や応用能力を駆使して課題解決する力量を問う問題になると見られ、これまでの選択科目Ⅲの出題テーマをさらに部門全体に広げた範囲の広いテーマになります。

必須科目Ⅰについては、10 月から掲載する（10 月 5 日掲載予定）第 4 回「必須科目Ⅰの出題傾向と取り組み方」で詳しく解説します。

平成 24 年度以前の記述式の必須科目（部門一般）に示された評価基準の概念と確認方法は、以下の通りです。30 年度からも、基本的には同じと考えています。

表－4 必須科目（部門一般）での評価基準の概念と確認方法

確認する能力	論理的考察力	課題解決能力
確認する能力の概念	現状認識に基づく課題の列挙、問題点の抽出から課題解決までのプロセスにおいて、検討に必要な要素の過不足、論理の矛盾や飛躍がなく、筋道を立て、明確な論拠を持って判断し、考察する能力	新たに直面した、または直面する可能性のある課題等に対し、多様な視点から検討し、論理的かつ合理的に適切な対応を行える能力
能力の確認方法	「技術部門」に関するテーマに対する対処のプロセスやその考え方等を問う ① テーマの技術的な内容について論	「技術部門」に関するテーマに対する課題や問題点の抽出・分析、それに基づく実現可能な対応策の提示等を問う

	<p>拠を持った分析・検討がなされ、その内容が、論理の飛躍や要素の過不足がなく、分かりやすく明確に記述されているか</p>	<p>② 問題点等の抽出・分析が適切に行われ、対処すべき要因が明確化されているか</p> <p>③ 対応方針や対応策は適切かつ実現性があるか、多様な観点からその効果、将来展望まで検討されているか</p>
--	--	---

4-2 選択科目Ⅱの変更

選択科目Ⅱは、受験者の負担を軽減するためとして、これまでの答案用紙4枚以内の記述が3枚以内に変更されると公表されています。問題の種類と出題の概念には変更はありませんが、4枚が3枚になることについては、どのような出題方式に変更になるか、詳しくは説明されていません。25年度の出題方式の変更の際も、詳細は事前に公表されなかったことから、今回も実際に試験問題を見るまでは、どのような出題になるかはたぶんわかりませんので、10月に掲載する第5回「**選択科目Ⅱの出題傾向と取り組み方**」で3つケースを予想して解説します。

5. 技術士試験合格への必要な基礎能力と知識習得の訓練

基礎的な知識・経験に基づく応用能力と課題解決力を、採点者に納得させる訓練が不可欠

施工現場に長く従事してきた実務技術者の多くは、専門とする事項の技術的知識と応用能力そして課題解決の経験は豊富で、口頭試験での質問への答えは豊富に持っています。ですから、試験の方式が専門科目に重点が変わって、それだけで合格しやすくなるはずですが、しかし、論理的に分かりやすく記述して説明することを不得手とし、知識や経験が狭く偏っている実務系専門分野の技術者にとっては、専門科目の記述式問題が今までよりも広範囲で複雑・多岐になれば、事態は必ずしも楽観できません。合格する答案とはどういう答案かを知り、記述力をまづいかに合格レベルに向上するかについては、基本的には変わりはないのです。

最初から技術士の記述問題をすらすら記述できる人はいません。私もそうでした。答案のような文章を日常の仕事のなかで書くことを求められることが少ないためです。この試験のような論文記述式試験そして口頭試験に合格するには、基本的な文章記述や口頭による説明方法のセオリーやコツを理解し習得する必要があります。仕事に高い業績があっても多くの人はそのコツを会得するためにかかなりの時間がかかります。それで十分な準備と訓練を、効率よくしないまま何度もチャレンジしているうちにあきらめてしまうケースが多いのです。

そこで、この非日常的な記述の答案を、合格レベルに書き上げられるよう効率的に訓練するノウハウを知ることも必要なのです。非日常的な訓練を日常的に継続的で有効な努力をしてセオリーを身に付けるしか方法はありません。合格への王道も秘訣もありませんが、そのコツはあります。それは自ら習得していかなければなりませんが、本講座でコツとノウハウを得るヒントにさせていただくことを期待しています。

受験の準備はできるだけ早く、計画的に始める

受験の準備は、できるだけ早く思い立ってすぐに始めることが必勝パターンです。

短い期間で中途半端な準備で試験に臨み、何年も受験料を払いつつ不合格を繰り返すか、1年間集中して1回で合格するのがよいか、コスト×時間で効率を考えると、後者ががぜん有利

です。計画的な準備開始は、遅くとも12月位からでない間に合いません。

参考までに私の場合、最初の専門科目は、前年9月上旬から受験の計画をして、9月～12月末には必要な資料整理ノート作成をほぼ一段落しました。1月～3月の年度末3ヵ月は、当時現場要員でしたので猛烈な職務繁多の期間で、隙間時間を活用してひたすらキーワード等の暗記・習得に努めました。4月から再開した受験準備では、ひたすら過去問、模擬問題の解答案を作成することに専念し、4月～8月末の約5ヵ月で経験論文（現在の技術的体験論文）の作成と多くの予想問題について、ほとんど解答をまとめることができるようになりました。

その成果もあって1回で合格できました。昭和の最後の年に初めての受験でしたが、私が受験した当時は筆記試験当日に800字×5枚（4000字）の経験論文を午前中に書き、午後から共通科目1問 800字×4枚（3200字）と、専門科目2問 800字×6枚（4800字）合計12000字以内の記述で、今の600字×7枚（4200字）の2倍以上の記述量でした。しかも今より遅い8月末の実施でしたが、全国のほとんどの試験会場には冷房設備はありませんでした。「こんな過酷な記述試験を何度も受験するのでは、気力と体力が持たない、年齢を重ねるとますます忙しくなり、記憶力や意欲、体力が低下する」という危機観もあって周到に準備し、受験時は39歳でしたがその当時、社内で稀少な一発合格を果たすことができたのです。

受験申込書を提出する4月からの受験準備開始では遅いので、間に合わない

一般的には受験申込書を提出した後の4月から勉強を始める人が多いようです。通常レベルの資格試験は大部分これで間に合いますが、**技術士第二次試験はこれでは遅すぎます**。試験日は、平成27年から7月の海の日（第3月曜日）に変更されていますので、4月早々から始めたとすれば、正味4ヵ月（約120日）となります。これは基礎的な答案作成のスキルがすでに大部分出来上がっている人か、かなり濃密な時間を勉強・準備に集中できる人のケースです。例えば、過去の出題にそれなりに答案をまとめることができるだけの能力と記述できる最新の記述要素の情報を、日頃から仕事を通じて備えている人の場合はこれでも大丈夫です。しかしこのようなレベルに到達していない大部分の人は、もっと早くから時間と手間を掛けて訓練しておかなければ、1～2回の受験での合格はとうてい無理です。

個人差があるので一概にはいえませんが、毎日1時間確実に時間をとれるようにしたとして、120日×1時間、これに休日（土日、祭日）にプラス3時間ずつ加えたとして約40日×3時間で、合計240時間です。これを確実にかつ有効に使う方法こそ、時間の長短よりも大事でしょう。そこで、この時期から受験講座を開講しているのです。

ただし、繰り返しますがこの講座を含めて受験用の解説書や受験講座を、いくら熱心に読みあるいは受講しても、実際に制限時間内に答案用紙に書く訓練を繰り返しておかなければ合格は難しいのです。

効果的、効率的な受験準備に、集中して取り組む

これまで受験者に関わり、受験指導をした経験によると、意欲がありそれなりの努力をしても、合格できない受験者は次のようです。

- ◎ インターネットで集めたような資料のコピー&ペースト（いわゆるコピペ）で過去問の情報や答案をまとめてみるだけで、実際の出題へ合格答案が書ける気になっている。
- ◎ 他人が書いた答案例や記述を集めて書き写すことに熱心で、受験者自身の経験が読み取れるような応用能力、課題解決力を表現する訓練をしていない。

- ◎ つまり、資料を多く集めて読むことだけで、手書きで答案記述の訓練をしない。
- ◎ 長年の間にクセや思い込みができ、表現力・文章記述能力が低いことに気が付かず、他人の意見や指導を受ける機会がないか、その際に謙虚になって修正することができない。

筆記試験のこの3年間の建設部門全体平均の対受験者合格率は約13%です。この数字だけからは受験者およそ8人中1人しか合格できていないように見えますが、実際に基礎的な知識を身につけ、経験を積んで論理的な記述について基本的な訓練を積む努力をしている方は、受験者の2～3割位という印象です。しっかり準備して受験に臨んだ人の合格率は実質的にもっと高いはずです。

6. この受験講座の主な内容とスケジュールご案内

講座の前半で各部門・各選択科目共通の、【試験への案内・準備・計画】について解説し、続いて、【出題傾向と取り組み方】で、必須科目Ⅰ、選択科目 記述問題Ⅱ，Ⅲ，について、各科目共通の過去5年間の出題傾向と準備について解説します

【基礎編】で、文章を分かりやすく書く基本原則と、答案の構造の組み立て方、すなわち答案作成（答案の構造）の基礎技術について解説します。

後半の【建設部門各選択科目への応用・実践編】講座で、選択科目毎に出題を分析します。各選択科目の答案作成への応用として、基本原則を用いてのそれぞれの「要素」、すなわちキーワードや概念を用いた答案のまとめ方について、過去問に具体例を挙げて解説します。

施工計画科目については、平成25年度～29年度の全出題（8問×5年＝40問）の答案記述例を第13回（1月15日頃）に掲載し、解説する予定です。

受験講座は9月から概ね毎月5日、15日、25日に、翌年6月頃まで継続して掲載します。

初めて受験しようとしている方へは、次の解説も掲載します。

- ◎ 技術士とはどういう資格か・「平成30年度技術士第二次試験の概要」⇒ 第2回
 - ◎ 受験申込書（業務経歴書）の書き方のポイント⇒ 平成30年4月頃（第21回）
- 第1回からの掲載スケジュールは、以下の通りです。

（都合により内容・順序、掲載時期の変更もあります）

【試験への案内・準備・計画編】 9月5日 から掲載予定

試験の案内、本講座の紹介、計画と準備等について紹介します

- 第1回 平成30年度受験講座 開講の案内
- 第2回 「技術士」資格と、技術士第二次試験の概要の解説
- 第3回 調査・計画と準備を始める

【出題傾向と取り組み方】 10月5日 から掲載予定

過去の建設部門全体の出題傾向と準備、取り組み方について解説します

- 第4回 建設部門の必須科目Ⅰの出題予想と取り組み方（建設部門共通）
- 第5回 記述問題Ⅱの出題と取り組み方（各選択科目共通）
- 第6回 記述問題Ⅲの出題と取り組み方（各選択問題共通）

【基礎編】 11月5日 から掲載予定

合格答案を作成するための全部門・全科目共通の文章記述の基礎を解説します

第7回 文章を簡潔に分かりやすく書く基本原則

分かりやすい文章にするための文章作法の基本原則と、それに付随・補足する項目について解説します。

第8回 論理的な答案論文の「構造」と「要素」の理解

第9回 「パラグラフ」の組み立て方

記述式試験の答案などの小論文では、それぞれのパラグラフの組立方と並べ方、文章の記述順序つまり小構造の出来も大きな評価ポイントです。

第10回 答案論文の論理的な展開

「構造」と「要素」に加えて答案論文の論理的な展開について理解を深めることにより、主旨・主張が分かりやすく説得力がある答案論文になることを解説します。

第11回 コラム：能力向上に向けての参考情報

【建設部門各選択科目への応用・実践編】 12月25日 から掲載予定

この回から各選択科目別に過去の出題を分析し、答案記述のヒントを探ります。

施工計画科目から始めて受験申込者数が多い選択科目順に出題の傾向を分析し、主に施工系技術者へ向けた取り組み方について解説します。(12月～6月頃まで)

各選択科目の出題の分析と取り組み方(平成25～29年度 5年分)

(施工計画～道路～コンクリート～河川、砂防 : 受験者数 上位4科目)

第12回 施工計画

第13回 施工計画科目の答案記述例と解説

第14回 コンクリート

第15回 道路

第16回 河川、砂防

(番外) 3月初旬 平成29年度試験 最終合格発表の結果

口頭試験合格発表(平成30年3月9日の予定)の結果を分析して掲載します。

第17回～第20回 土質・基礎～建設環境～鋼構造～都市計画 (受験者数 中位4科目)

第21回 (予定) 受験申込書の書き方 3月下旬

4月上旬以降 4月からの受験申込書の配布、あるいは記載時期に合わせて解説します。

受験者数 下位4科目 **港湾・空港、鉄道、トンネル、電力土木**を目指す方へ

受験者数が少ない4科目のうち、「トンネル」科目を除く3科目について、30年度のこの講座から「選択科目の出題の分析と取り組み方」についての、科目個別の解説を省くことを検討しています。

前年度までの22回～26回で、受験者数 下位4科目 **港湾・空港～鉄道～トンネル～電力土木**についての、出題の分析と取り組み方を各科目別に解説してきましたが、3科目を省く理由は次の通りです。

①福岡での受験者が少ない(毎年100人以下、全国ではそれぞれ500～600人程度)ので、

この講座を見て参考にさせていただいている該当者は、たぶんいない。

②港湾・空港、鉄道、電力土木科目の受験者に、この講座での主な対象者としている施工系技術者はかなり少数である。(受験者のほとんどが、計画、設計、マネジメント系=発注者側と推定している)

③筆者の経験、知識からこれらの科目への解説内容が、他の科目に比べて浅くなる。

この講座を参考にさせていただいている方のうち、港湾・空港、鉄道、電力土木科目の受験者あるいは、その受験指導をしている方で、解説の継続を希望される方が一定の数であれば、継続することを再考するか、または少ないながら要望がある場合は個別に25～28年度までの出題解説をお送りします。

これらの3科目の掲載予定時期(30年4月、5月頃)までに、ご要望の連絡がない場合は、掲載を省くことに決定しますので、ご了承ください。

質問・連絡・相談、ご意見、ご要望は、次のアドレスへ E-mail: tk-pe.civil@hyu.bbiq.jp

第22回 (予定)トンネル科目

トンネル科目は、受験者数の多少に関わらず、科目個別の解説を継続します。

トンネル科目の受験者には施工系技術者の受験者が相応いる科目であることを確認していることと、他の科目へも関連して参考にできる出題があるためです。

(第23回～第24回) 答案用紙への書き方、試験当日の心構え、模擬試験問題の提供
口頭試験受験への準備

30年度出題の解説速報

筆記試験の合格発表速報

7. カウンセリングと受験個別指導のご案内

技術士第二次試験は、最終合格率が建設部門での直近の10年間の平均で約13%(実際の受験者約8人に1人の合格)に低迷し、その合格者の、合格までの平均受験回数は約4回というデータがあります。この数字から我流や独学では合格し難い難関になっているといえます。

これまで指導を求められた受験生の答案の文章作成力は、千差万別でした。わずかな添削・修正で、すぐ合格できるレベルに達する人もまれにいますが、一方で多くの方が、強化すべき自分の答案の弱点を知ることがなかなかできず、そのため弱点を重点的、効率的に補強することなく、ずるずると毎年不合格を繰り返している多くの例もみえています。

合格できる答案は、その合格基準が大まかには示されていますが、具体的な評価の方法やレベルは推定するしかありません。合格レベルの答案には、一通りでなくいろいろな書き方や表現方法があるはずで、その中で、合格できる答案とはどういう答案か?を理解し、それに到達できるレベルにできるだけ早く、自分に合う方法で引き上げることが重要です。

合格するためには自分のレベルと弱点の分析評価(現状)⇒ 訓練・補強する計画(課題)・準備 ⇒ 実行 ⇒ 記述演習や模擬試験で具体的にチェック ⇒ 修正・補強、まさに受験

のPDCAを回していくことです。

過去の出題や、出題が予想される問題について、自分で書いた答案を適任者に読んでもらって、題意に合っていて適切か、分かりやすいかどうか、どう修正すれば合格レベルになるか添削・指導を受け、それを繰り返して訓練することが最も効果的です。

とりわけ平成25年度以降は、過去の出題だけでなく、新しい問題の切り口を多面的に予想して準備しておかなければならないという、難しい局面になっています。

できるだけ確実な情報収集と、予想される出題に対応した学習が必要です。

NPO法人 西日本建設技術ネットでは、施工、マネジメント系の技術者に、技術士資格を取得してさらに高い意欲をもって活躍していただくために、当会員を中心としたベテランの技術士のネットワークで、実務中心のきめ細かいていねいな受験指導を行います。

以下の募集要件を満たし、試験の合格を最短で目指したい方を対象にお引き受けします。

質問・連絡・相談は、次のアドレスへ

E-mail: tk-pe.civil@hyu.bbiq.jp

募集要件

年齢： 概ね50歳以上～上限なし

- 経歴：◎ 建設・施工系会社で、主に工務・技術、施工のマネジメントを担当してきた方
- ◎ 新設の施工のみならず、維持・補修、特殊分野の専門工事、建設材料等に從事された方も歓迎します。
- ◎ 公務員、公的機関等で建設マネジメントに従事してきた方
(建設コンサルタントで設計業務を中心に従事してきた方はご遠慮下さい。)

選択科目： **施工計画、道路、コンクリート**

- ◎ 建設部門の上記以外の科目、総合技術監理部門での受験指導を希望される方には、相談に応じます。

指導内容： 受験準備（技術ノートのまとめ方）指導

各専門科目でのわかりやすい答案論文の書き方（添削指導）

受験申込書の業務経歴書の書き方

居住地等： 九州、山口県の西日本地域

（指導担当者と1回は面談した上でお引き受けできるかを決めさせていただきますので、面談が可能な方とします。面談なしでメールのみでの指導は、原則として紹介者がいる場合のみとしています。）

その他： MSワード&エクセルが使用でき、インターネットで情報検索、およびEメールで随時交信、情報伝達ができる状態にあること。

要件： NPO法人 西日本建設技術ネットの活動趣旨に賛同して、当会に入会し（合格までは準会員）、合格後は正会員として、活動していただけること
上記要件を満たす方には無償、無期限で、合格まで指導を引き受けます。
50歳以下の方でも、当会に入会して活動していただける方にはご相談に応じます。

当会へ入会及び活動が困難な方には相談の上有償にてお引き請けしますので、ご連絡下さい。

E-mail: tk-pe.civil@hyu.bbiq.jp 個人情報厳守します。

対応できる人数に限度がありますので、まずは、メールにてご連絡・ご相談下さい。
面談の上、お引き受けできるか相談に応じます。面談やメールの交信により、それぞれの
進行段階に応じた指導、論文の添削を行います。

建設部門以外も含めた各部門・専門科目の受験を目指す方には、福岡市に拠点を置く受験講座（有償）を紹介します。以下のHPをご覧ください

☆☆☆☆ 受験講座 お問い合わせ・受講申し込み先 ☆☆☆☆☆

受験講座 実施組織 「九州技術士受験研究会」 ☞ でHP検索

ホームページ URL : <http://kyushugijutsushi.la.coocan.jp/>

平成30年度技術士第二次試験 受験対策基礎講座

日時：福岡会場 平成29年12月10日（日） 13時～16時
平成30年 1月14日（日） 13時～16時
北九州会場 平成30年 1月20日（土） 13時～16時

（いずれも同じ内容です。都合の良い日をお選び下さい）

場所： 福岡会場 エイムアテイン博多駅前 会議室
北九州会場 北九州テレワークセンター

上記HPにて掲載の案内を確認後、直接申込をお願いします

平成30年度から変更される、試験の内容と取り組み方を解説します。ご希望の方にはカウンセリングを行って、個別の相談に応じています。

技術士第二次試験を受験するには、最初に受験技術部門の「キーワード」洗い出しと、整理及び個々の技術の要約資料「技術ノート」の作成が不可欠です。これによって該当技術分野の技術を俯瞰的に理解し習得する基礎固めができます。

「基礎講座」はこの「キーワード集」と「技術ノート」作成の指導をいたします。平成29年7月に行われる二次試験まで7カ月ほど余裕のある11月～1月に基礎講座を受講し「キーワード集」、「技術ノート」を早めに仕上げるのが重要です。

平成30年度技術士第二次試験 筆記試験講座 (予定)

日時：第1回スクーリング 平成30年 2月18日（日） 10時～17時
第2回スクーリング 平成30年 4月15日（日） 10時～17時
第3回スクーリング 平成30年 5月20日（日） 10時～17時
模擬試験 平成30年 6月24日（日） 10時～17時

平成30年度 技術士第二次試験 筆記試験日 (予定)

平成30年 7月17日（月・祭） 10時～17時